

2023年3月期 第2四半期（上期） 決算概要

2022年11月10日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。
2023年3月期 第2四半期（上期）決算の概要を説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

第2四半期業績のハイライト

■ 売上収益

- 初の2,000億円超え、過去最高更新
- 症例数など医療需要が回復、為替除いても海外全地域で前同比伸長
- 原料血漿採取システム「Rika」販売開始

■ 営業利益

- インフレ影響によるコスト増加あるも、売上総利益前同比二桁増
- ポートフォリオ整理（TBCT・細胞処理事業の一部）
- 調整後営業利益は前同比増に反転

まず始めに、本決算のハイライトです。

売上収益は成長の軌道に戻り、3カンパニーいずれも前同比から伸長し、四半期で初めて2千億を超え、過去最高の実績となりました。

症例数など医療需要の回復は順調で、為替を除いても海外全地域で前同比増収を果たしました。

また、このQ2において、原料血漿採取システムRikaの販売を開始しました。利益について、インフレによるコスト増加があったものの、増収により売上総利益は11%と二桁の伸びとなりました。

ポートフォリオの整理を進めていますが、血液・細胞テクノロジーカンパニーの自家生物製剤事業、これは血液・細胞テクノロジーカンパニーの細胞処理というセグメントに含まれる事業ですが、こちらの事業売却にかかわる、のれんの減損35億円を計上しました。

最後に、この四半期の調整後営業利益が前同比で増額に転じたことは、非常に良い兆候を示しています。

次のスライドをお願いします。

P&L実績

■ 売上収益は4,000億円、売上総利益は2,000億円を超えて過去最高

■ 営業利益はTBCT・細胞処理事業の一部売却による減損約35億円を含む。調整後営業利益はQ2単体で前年比増益に転じた

金額 (億円)	FY21 Q2累計	FY22 Q2累計	増減率	為替除く増減率	FY21 Q2	FY22 Q2	増減率
売上収益	3,446	4,033	17%	5%	1,729	2,060	19%
売上総利益 (%)	1,862 (54.0%)	2,070 (51.3%)	11%	2%	920 (53.2%)	1,054 (51.1%)	15%
一般管理費 (%)	955 (27.7%)	1,171 (29.0%)	23%	9%	490 (28.4%)	605 (29.4%)	23%
研究開発費 (%)	247 (7.2%)	297 (7.4%)	20%	8%	130 (7.5%)	157 (7.6%)	20%
その他収益費用	-2	-42	-	-	-3	-37	-
営業利益 (%)	659 (19.1%)	560 (13.9%)	-15%	-16%	296 (17.1%)	255 (12.4%)	-14%
調整後営業利益 (%)	741 (21.5%)	704 (17.5%)	-5%	-10%	339 (19.6%)	345 (16.8%)	2%
税引前利益 (%)	653 (18.9%)	546 (13.5%)	-16%		293 (16.9%)	250 (12.1%)	-15%
当期利益 (%)	500 (14.5%)	403 (10.0%)	-19%		221 (12.8%)	179 (8.7%)	-19%
期中平均レート(USD/EUR)	110円/131円	134円/139円			110円/130円	138円/139円	

©TERUMO CORPORATION

4 / 25

TERUMO

PLの実績です。

累計の売上収益は、4千億を突破しました。前同比17%増加です。為替影響がプラス410億円あります。為替を除く伸び率は5%でした。

ではこれからはQ2のみの数字を説明します。

売上は、2,060億円で、前同比19%増加。為替の影響は、プラス240億円です。

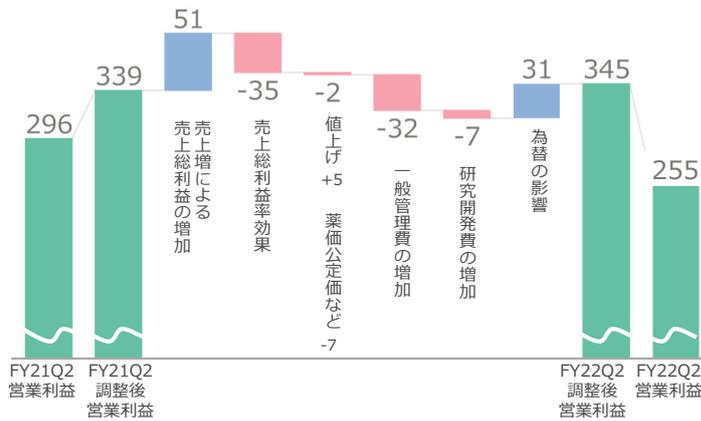
売上総利益はマクロ環境の変化による影響を受けつつも、1Qに続き1千億円を超える四半期として過去最高となりました。

営業利益は255億円ですが、先ほど申し上げたのれんの減損を含みます。そのため、一時的に営業利益を引き下げましたが、下期において栄養事業の売却による益を計上する予定で、通期では影響がでない見込みです。調整後営業利益はQ2のみでは増益に転じました。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析（Q2）

（億円）



- 売上増による売上総利益の増加：
Q1と同水準の安定した増加
- 売上総利益率効果：
インフレ影響は拡大した一方、ミックス改善も寄与し、Q1と同水準の影響
- 価格：
値上げ効果はQ1より拡大
- 一般管理費・研究開発費の増加：
計画範囲内、抑制しつつ下期以降の事業展開に備える
- 為替の影響：
Q1から円安が更に進行

©TERUMO CORPORATION

5 / 25

TERUMO

Q2のみの増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は51億円でQ1と同額となりました。

「売上総利益率効果」もQ1と同額となりましたが、インフレの影響が残る中、ミックス改善も寄与しています。

価格について、値上げ効果が5億円となり、Q1の効果より拡大しました。

一般管理費や研究開発費については、カンパニー、地域、そして本社機能軸において優先順位を意識し、必要なところへ投じながら、計画の範囲内でコントロールしています。

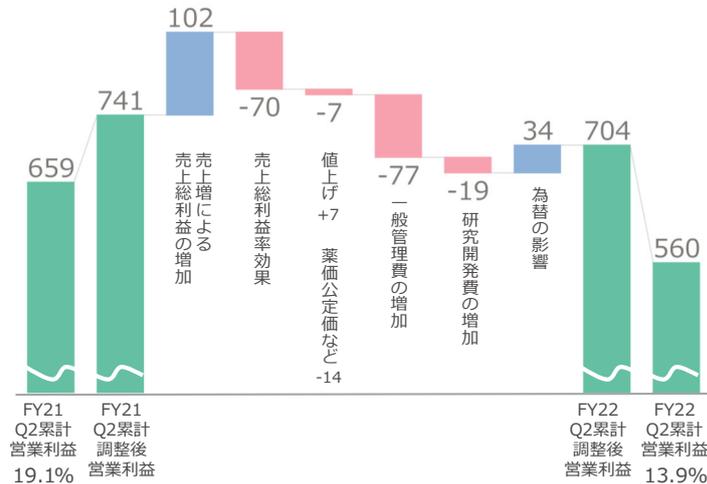
「為替の影響」については、Q1からの円安効果によりプラスで推移しました。

結果、このQ2では調整後営業利益が増益に転じています。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析（Q2累計）

（億円）



- 売上増による売上総利益の増加：
心臓血管、血液・細胞テクノロジーの需要が伸び、順調に売上が増加
- 売上総利益率効果：
インフレ影響拡大の一方、心臓血管の売上増によりミックス改善も寄与
- 価格：
値上げ効果がQoQで拡大
- 一般管理費・研究開発費の増加：
計画範囲内、抑制しつつ下期以降の事業展開に備える
- 為替の影響：
Q1から円安が更に進行

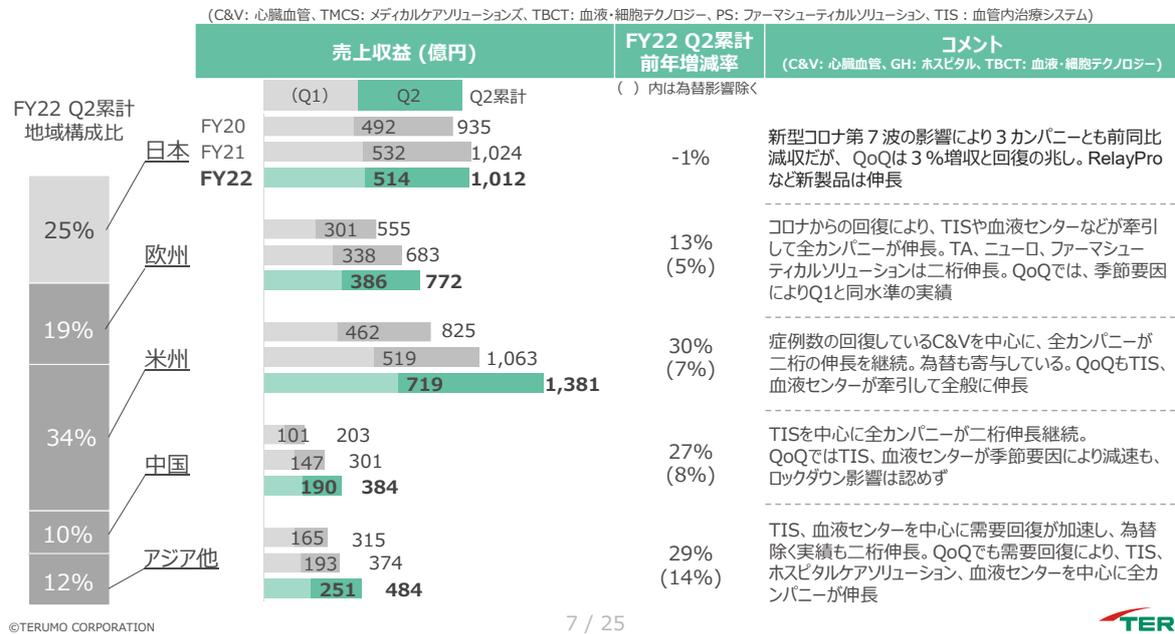
©TERUMO CORPORATION

6 / 25

TERUMO

累計の営業利益の増減分析ですが、ここでは営業利益率が、前年19.1%から13.9%と約5ポイント下げた偏差について説明します。図は金額を示していますが、率の内訳でご説明することをご了承ください。売上総利益率効果については、C&Vや血液でのミックス改善や、去年の生産調整がなくなったなどプラスの要因がある一方で、マクロ環境の変化による材料費や電気ガスなどのコスト増加、血漿のビジネス立上げ等が下げて、2ポイント下げました。一般管理費や研究開発費の増加により1ポイントです。対前年同期比では増加ですが、コロナ前に比べると、むしろ1ポイント押さえてコントロールをしています。為替の影響は金額ではプラスで増益にきいたものの、売上に対する比率では1ポイントの下げとなります。これはUSDドルの為替感応度の影響が、売上ではプラスになるのに対して、利益ではニュートラルであることが理由です。これに減損の1ポイントをあわせ、合計で5ポイント下げとなりました。次のスライドをお願いします。

地域別売上収益



7 / 25



地域別売上収益です。

日本の上期は1%の減収、Q2のみは、新型コロナの第7波の影響により、3つのカンパニーとも減収となりました。一方で、新製品のRelayProやAZUR、DESのNagomiなどは伸びました。

欧州は、為替を除く売上収益が上期、そしてQ2のみでも5%増収と堅調です。Q1に対してQ2が若干マイナスとなりましたが、季節的要因であり、増収のトレンドに変化はありません。

米州は、為替が寄与して高い増収率になりました。但し、為替を除く売上収益も上期で7%増収です。症例が増えるなど、成長軌道へ回復してきていることが見て取れます。心臓血管カンパニーのTIS事業がQ1に対して2%増収しており、季節的要因も跳ね返して伸びました。

中国は、為替を除く売上収益が上期で8%増収でした。ロックダウン影響は出ていません。

アジア他は、上期でプラス14%ともっとも成長率が高く、Q2のみも13%増収でした。心臓血管カンパニーの症例数拡大や、血液・細胞テクノロジーカンパニーの血液センターの需要増加が牽引しました。

次のスライドをお願いします。

C&V:

為替影響除き6%伸長。米国も含め、症例数は成長軌道へ回復
セグメント利益は、インフレや為替の影響を引き続き受ける

(億円)

	Q2累計			Q2			コメント	Q2累計 売上増減
売上収益	()内は為替影響除く						TIS : 為替影響を除くQ2累計売上において、海外は7%伸長。症例数がCOVID-19前の成長軌道に戻り、がんや下肢のインターベンションも伸びた。米国において、冠動脈用のマイクロカテーテルやガイドワイヤーなどの新製品の販売を開始	+275
	1,494	1,943	2,354 +21% (+6%)	821	948	1,186 +25%		
セグメント利益							ニューロ : 為替影響を除いても、欧米は二桁成長。脳動脈瘤向けのWEBが北米で拡大、FREDも新製品投入の効果	+71
	320	508	529 +4% (-3%)	196	214	249 +16%		
CV :							症例数回復に伴い、概ね堅調	+26
TA :							胸部ステントグラフトのRelay Proが好調。Thoraflex Hybridも欧米で拡大	+38
利益率	21%	26%	22%	24%	23%	21%	利益 : インフレ影響があるものの増益。利益率は円安進行により低下	

©TERUMO CORPORATION

8 / 25

TERUMO

カンパニー別の業績です。まず、心臓血管カンパニーです。

全体の売上収益は、累計で約2300億円となり前同比21%の増収、為替除いて6%の増収でした。Q2はQ1から若干減収しましたが、欧州や中国などの季節的要因の影響です。

症例数は、日本ではコロナの影響で回復が遅れているものの、米国はQ1に比べて良く、Q2の中でも月を追って良くなってきました。欧州、中国、アジアは堅調で、ほぼ計画通りの水準に戻ってきました。

TISは、為替影響を除いても、中国、アジアが二桁成長、欧米も確実に伸び、海外合計で7%の増収でした。がんや下肢のインターベンションのほか、米国で冠動脈用のマイクロカテーテルやガイドワイヤーなど新製品を上市したカーディオロジーも伸びました。

ニューロは、欧米では、為替影響を除いても二桁成長を維持しています。脳動脈瘤向けのWEBが北米でさらに拡大、FREDも新製品の効果が拡大しています。Q1からは若干減収しましたが、季節的要因によるもので、シェアの変化ではありません。

CVは堅調で、季節的要因による影響のみで、シェアの変化はありません。血管は、新製品の胸部ステントグラフトRelayProが好調です。上期の間

にもっとも売上を増やした新製品でした。この他にThoraflex Hybridも欧米で伸びています。

セグメント利益は、インフレの影響があるものの増益でした。利益率は、円安の進行により売上がプラスになる一方、感応度で示している通り、利益ではプラス効果が少ないため、若干低くなりました。

次のスライドをお願いします。

TMCS:

第7波の影響によりQ2は減収、累計では増収を維持
セグメント利益は、インフレ悪化および為替（元高）影響を受け減少

(億円)

	Q2累計			Q2			コメント	Q2累計 売上増減
	()内は為替影響除く							
売上収益	818	920	938	426	482	478	HCS ホスピタルケア ソリューション： 日本が、コロナ第7波の影響を受けて減収となったが、海外が為替の寄与によりカバーして増収を維持。為替を除くと小幅減収	+8
			+2% (-1%)			-1%	LCS ライフケア ソリューション： 前年大きく伸びた体温計・血圧計の需要が減少。国内の自己血糖測定向け製品群は競争激化により価格下落	-12
セグメント利益	117	134	81	65	70	37	PS ファーマシューティカル ソリューション： 海外の医薬品容器販売が牽引し15%増収	+22
			-39% (-33%)			-47%	利益	
利益率	14%	15%	9%	15%	15%	8%	： 昨年下期からの部材費高騰と為替（元高）影響に加えて、Q2には、電気・ガスのコストが増加して減益	

©TERUMO CORPORATION

9 / 25



TMCS、メディカルケアソリューションズカンパニーです。

上期の売上収益は、900億円強で2%増収でしたが、為替影響を除くと1%減収でした。但し、Q1からQ2では為替を除いても3%増収で、回復の兆しを見せています。

ホスピタルケアソリューションは、上期は2%増収でした。日本が、新型コロナ第7波の影響を受け、医療需要の回復が遅れていて、海外が為替の影響を受けてこれをカバーしました。為替を除くと、小幅ですが減収でした。

ライフケアソリューションは、前年大きく伸びた体温計・血圧計の需要減の影響と、自己血糖測定の製品群の競争激化による価格下落が引き続き影響して、減収となりました。

ファーマシューティカルソリューションは、上期で15%増収ですが、特にQ2は海外の医薬品容器販売が好調でした。

セグメント利益は、昨年下期から続く部材費の高騰と元高の為替影響に加え、Q2では電気・ガス代が増加して、減益となりました。

次のスライドをお願いします。

TBCT:

売上収益は二桁成長、利益は血漿ビジネスとインフレ影響により減益
原料血漿採取システム「Rika」販売を開始

(億円)

	Q2累計			Q2			コメント	Q2累計 売上増減
売上収益	()内は為替影響除く						血液センター： グローバルで輸血需要が回復。欧米では、全血採血における自動化イノベーションが売上増に貢献。成分採血も、欧米、中国などで販売を伸ばした。原料血漿採取システム「Rika」の販売を開始	+119
	520	582	740	272	299	395		
			+27% (+12%)			+32%		
セグメント利益	89	118	91	50	58	55	アフレシス治療： 細胞治療数の伸びに応じ、堅調な需要が続く。為替影響を除いても、9%と高伸長	+28
			-23% (-24%)			-5%		
利益率	17%	20%	12%	18%	19%	14%	細胞処理： 細胞治療ニーズ拡大に伴い、機器需要が堅調。自家生物製剤事業は10月に譲渡完了	+10
	FY20	FY21	FY22	FY20	FY21	FY22	利益： 血漿イノベーションの先行投資とインフレの影響により減益	

©TERUMO CORPORATION

10 / 25



TBCT、血液・細胞テクノロジーカンパニーです。

売上収益は、上期が27%増収、Q2のみも32%増収と、為替を除いても二桁の成長となりました。

血液センター向けビジネスは、グローバルで輸血需要が回復してきたこと、さらに、全血採血における自動化イノベーションが欧米で伸びたほか、成分採血も欧米、中国などで伸ばしました。なお、Q2において、原料血漿採取システムRikaの販売を開始しました。

アフレシス治療は、細胞治療数の伸びに応じ、堅調な需要が続いています。こちらは為替の影響を除いて上期で9%増収でした。

細胞処理は、細胞治療ニーズの拡大に伴い、機器の需要が堅調でした。なお、売却した自家生物製剤の事業はこのサブセグメントに含まれます。10月に譲渡を完了しました。

セグメント利益は、原料血漿システムRikaの本格展開に向けた、先行的な費用投下、さらにインフレの影響もあって減益ですが、既存事業の大幅な増収を受けて、Q1からQ2では増益しました。

次のスライドをお願いします。

今後の取り組み

■ 下期

- 下期以降の値上げ策を拡大・実行
- 費用コントロールの強化

■ 中長期

- 物流費抑制 船会社・航空便の選別、グローバル物流ネットワーク再構築
- 原材料費高騰対策 グローバル現地調達ルート of 整備・確立
- 労務費高騰対策 安定稼働と最適地生産地へのシフト加速（コスタリカ、ベトナム等）
- 収益改善（VC2） GBSを11月1日から欧米で導入

さて、利益率改善に向けて、下期には値上げ策を拡大、開始しました。また、カンパニー、本社ともに オペレーションの強化はもちろん、製造コストや販売管理費の費用コントロールをさらに強化します。

中長期的な取り組みでは、先ほど佐藤がお話しましたが、次の対策を継続して講じていきます。

物流費抑制策として、船会社、航空便の選別、グローバル物流ネットワーク再構築を進めます。

原材料高騰対策として、グローバル現地調達ルート of 整備・確立に取り組みます。

労務費高騰抑制策として、工場の安定生産を継続しつつ、最適地生産地へのシフトを加速します。これらは、為替の影響が極端に出ないようにするためにも、重要な策です。

最後に、本社機能軸では、収益改善活動VC2、Value Creation through Collaboration、の一つで グローバルプロセス標準化と効率化を目的としたGBSをアメリカと欧州で11月1日よりスタートしました。業績予想については、売上が為替が売上増に貢献、実質も順調に推移しており、厳しい環境にあるものの利益もしっかり達成していく。

インフレ影響と為替についてさらに様子を見る必要があり、変更はしていません。

配当予想の修正

- 安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指す
- 22年度は年間38円へ（従来予想から2円増配）

	従来予想	今回予想
配当/株（円）	36.0円 中間18.0 期末18.0	38.0円 中間19.0 期末19.0
配当性向	26.9%	28.4%

※22年度業績予想 当期利益：1,000億円、EPS：133.88円

※中間配当は、2022年11月10日公表の「剰余金の配当（第2四半期末配当）および配当予想の修正に関するお知らせ」のとおり確定

今期の配当予想につきまして、増配基調は堅持し上期の業績等を踏まえ、中間・期末で2円ずつ、年間で4円増やして38円と致します。中間は別途お知らせの通り、確定いたしました。

製品パイプラインとトピックス

※ C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルアプリケーションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、TIS: 血管内治療システム、HCS: ホスピタルアプリケーション、LCS: ライフケアソリューション

主要製品の発売・適応取得状況

領域	一般名	製品名	済 FY21まで	FY22	FY23以降
TIS	薬剤溶出型冠動脈ステント	Ultimaster Nagomi	日本で販売	欧州で発売	アジア・中南米で発売
ニューロ	血流改変ステント	FRED X	欧州・米国で販売	開始 米国で拡販、地域拡大	
血管	胸部大動脈ステントグラフト	Relayシリーズ	欧州で販売、米国・日本で瘤の適応取得	米国で解離と外傷性損傷、日本で解離の適応取得 済	品種追加、RelayBranchの臨床試験を実施
HCS	汎用輸液ポンプ	テルフュージョン輸液ポンプ18型	日本で販売	欧州・中南米で発売	アジアで発売
LCS	パッチ式インスリンポンプ	メディセーフウィズシリーズ	現行モデルを日本・欧州で販売	改良品を日本で発売	Diabeloop社とのAIDシステム連携、地域拡大検討
TBCT	細胞増殖システム	Quantum Flex	Quantumをグローバルで販売	品種追加としてQuantum Flexを発売	細胞処理事業で二桁成長を目指す



FRED X



RelayPro

主なトピックス

- ・ 全社 : ①多様なステークホルダーの皆さまと価値共創を実現するための「パーパス」を発表
②2022年度グッドデザイン賞を、WEB、Dexcom G6、Nagomiの3製品が受賞（WEBはグッドデザイン金賞＝経済産業大臣賞）
- ・ C&V : R2P（下肢動脈へのラジアルアプローチ）の臨床試験結果が米国の学会にて公表され、安全性や早期退院など有用性が示唆された
- ・ TMCS : 協和キリン株式会社と共同開発の「ジーラスタ®皮下注3.6mgボディーポッド」が製造承認を取得
- ・ TBCT : 原料血漿採取システム「Rika」を使用した、初のドナーからの血漿採取が完了

最後に、主要製品の今年度計画の進捗状況と、主なトピックのご紹介です。

Q2においては、2つ目、FRED Xの米国での拡販が進みました。

また3つ目のRelayProですが、販売が好調な上、日本において大動脈解離の適応を取得いたしましたので、今後の更なる拡大が期待されます。主なトピックのうち、7月8日に、テルモのパーパスを発表いたしました。これからの10年を見据え、世界の医療にどのような貢献ができるのか、自らに問いかけ、また社会の期待にも応えるため、テルモが目指す方向性をより具体的に示すことができました。

また、カンパニー別に取り上げましたトピックは、いずれもGS26の主要なテーマにおける重要なマイルストーン到達を表しています。今後の進展が楽しみです。

以上で、決算説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

売上明細 (地域別・事業別)

2022年度 上期 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for the First Half of FY2022

(百万円/millions of yen)

	1st Half FY2021								1st Half FY2022														
	日本 JPN	海外 Overseas	欧州 Europe	北米 Americas	中国 China	アジア圏 Asia and others	合計 WW	日本 JPN	海外 Overseas	欧州 Europe	北米 Americas	中国 China	アジア圏 Asia and others	合計 WW	増減率 %YoY								
心臓血管カンパニー	TIS	15,564	114,817	33,838	31,380	18,501	13,397	130,383	15,416	-1.0%	142,497	24.1%	34,533	10.2%	65,672	27.3%	23,967	29.5%	18,322	36.6%	157,914	21.3%	39.2%
	ニューロバスキュラー	2,695	25,315	8,638	10,639	4,512	1,904	27,811	2,722	1.0%	32,195	28.2%	9,534	18.6%	14,512	36.1%	5,137	0.1	3,010	58.1%	34,917	23.6%	8.7%
	シーラザンバスキュラー	5,441	17,821	3,653	11,429	1,049	2,396	23,270	5,095	-6.4%	20,837	16.5%	3,174	4.0%	13,314	16.3%	1,193	14.6%	3,203	13.7%	25,983	11.2%	6.4%
	血管	1,303	11,473	6,288	3,620	774	591	12,771	1,683	29.2%	14,906	29.9%	7,621	21.7%	5,799	51.6%	797	8.0%	637	11.3%	16,590	29.6%	4.1%
Cardiac and Vascular Company		25,005	169,335	48,720	77,490	24,827	18,209	194,341	24,917	-0.4%	210,487	24.3%	54,894	12.7%	99,299	28.1%	31,690	25.2%	25,196	37.6%	235,405	21.1%	58.4%
メディカルケアソリューションズカンパニー	ホスピタルケアソリューション	49,771	13,633	1,880	4,065	589	7,693	63,410	48,981	-1.6%	15,265	11.0%	1,317	-4.6%	5,093	25.3%	3,078	83.6%	7,774	2.3%	64,246	1.8%	13.0%
	ライフケアソリューション	12,212	1,871	406	13	528	921	14,084	11,361	-7.0%	1,545	-17%	378	-7%	7	-47%	390	12%	568	-35%	11,907	-8.4%	3.2%
	ファーマシューティカルソリューション	9,742	4,724	3,178	863	65	516	14,466	10,406	6.8%	6,245	32.2%	3,899	22.7%	1,330	38.1%	204	210.6%	811	56.9%	16,651	15.1%	4.1%
Medical Care Solutions Company		71,726	20,234	4,966	5,042	1,184	9,042	91,961	70,749	-1.4%	23,056	13.9%	5,596	12.7%	6,421	27.6%	1,872	38.2%	9,155	1.3%	93,805	2.0%	23.3%
血液・細胞テクノロジーカンパニー	血液センター	5,297	37,529	11,419	14,129	3,397	8,583	42,826	5,124	-3.3%	49,623	32.2%	12,822	12.3%	20,159	42.7%	4,541	33.7%	12,099	41.0%	54,748	27.8%	13.6%
	アブレンシス治療薬	186	11,062	2,802	6,296	560	1,492	11,249	268	44.0%	13,816	24.9%	3,312	18.2%	8,072	28.2%	713	27.6%	1,715	22.3%	14,084	23.2%	3.5%
	細胞治療	71	4,062	400	3,384	144	132	4,134	50	-29.5%	5,095	23.5%	356	38.9%	4,133	22.1%	142	-1.6%	264	100.3%	5,147	24.3%	1.3%
Blood and Cell Technologies Company		5,555	52,655	14,622	23,811	4,102	10,110	58,210	5,444	-2.0%	68,536	30.2%	16,691	14.2%	32,365	35.9%	5,399	31.6%	14,079	39.1%	73,980	27.1%	18.3%
Others		124	-	-	-	-	-	124	124	-0.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	124	-0.3%	0.0%
合計 Total		102,412	242,225	68,307	106,343	30,124	37,449	344,637	101,235	-1.1%	302,050	24.7%	77,181	13.0%	133,096	29.9%	33,271	27.4%	48,430	29.3%	483,316	17.0%	100.0%
売上比率 % to Total		29.7%	70.3%	19.8%	30.9%	8.7%	10.9%	100.0%	25.1%		74.9%	19.1%	34.2%	9.5%		12.0%				100.0%			

(換算平均為替レート)

(Average Exchange Rates)

(USD:¥110.50)

(EUR:¥130.88)

(USD:¥113.03)

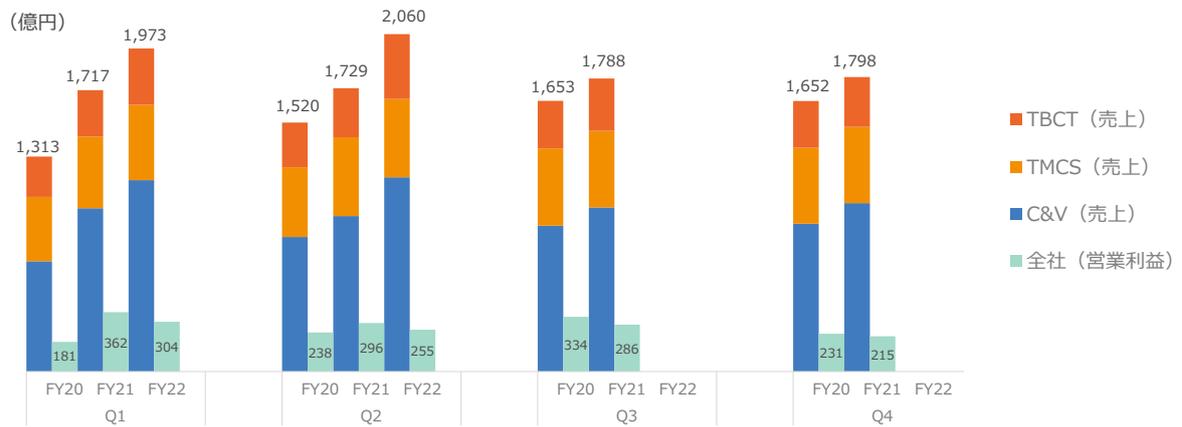
(EUR:¥136.76)

* 2022年度より、従来の「メディカルケアソリューションズカンパニー」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しています。なお、サブセグメントについては、従来の「ホスピタルケアソリューション」は「ホスピタルケアソリューション」に、「DM and Consumer Healthcare」は「DM and Consumer Healthcare」に、「ファーマシューティカルソリューション」は「ファーマシューティカルソリューション」に変更されています。これに伴い、2021年度についても、変更後の名称で記載しています。

売上収益・営業利益の四半期推移

■ 売上収益： Q2実績は前年同期比19%伸長、四半期として過去最高。QoQでは4%伸長

■ 営業利益： Q2実績は前年同期比14%減、QoQでは16%減



P&L（四半期推移）

（億円）

	FY21 Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	
売上収益	1,729	1,788	1,798	1,973	2,060	
売上総利益	920 (53.2%)	926 (51.8%)	905 (50.3%)	1,016 (51.5%)	1,054 (51.1%)	
一般管理費	490 (28.4%)	507 (28.4%)	528 (29.4%)	566 (28.7%)	605 (29.4%)	
研究開発費	130 (7.5%)	128 (7.2%)	144 (8.0%)	141 (7.1%)	157 (7.6%)	
その他収益費用	-3	-5	-18	-6	-37	
営業利益	296 (17.1%)	286 (16.0%)	215 (12.0%)	304 (15.4%)	255 (12.4%)	
調整後営業利益	339 (19.6%)	330 (18.5%)	273 (15.2%)	359 (18.2%)	345 (16.8%)	
四半期	USD	110円	114円	116円	130円	138円
平均レート	EUR	130円	130円	130円	138円	139円

販管費（四半期推移）

(億円)

		FY21 Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
人件費		249	255	256	298	312
販促費		40	44	45	46	44
物流費		39	39	41	44	47
償却費		50	51	54	56	59
その他		112	118	132	123	142
一般管理費計		490	507	528	566	605
(%)		(28.4%)	(28.4%)	(29.4%)	(28.7%)	(29.4%)
研究開発費		130	128	144	141	157
(%)		(7.5%)	(7.2%)	(8.0%)	(7.1%)	(7.6%)
販管費合計		621	635	672	706	761
(%)		(35.9%)	(35.5%)	(37.3%)	(35.8%)	(37.0%)
四半期 平均レート	USD	110円	114円	116円	130円	138円
	EUR	130円	130円	130円	138円	139円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY21 Q2累計	FY22 Q2累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY21 Q2	FY22 Q2	増減	増減率
人件費	498	610	112	22%	6%	249	312	63	25%
販促費	70	90	20	28%	16%	40	44	4	10%
物流費	77	91	14	18%	7%	39	47	8	21%
償却費	98	115	17	17%	8%	50	59	9	18%
その他	211	265	53	25%	14%	112	142	30	27%
一般管理費計	955	1,171	215	23%	9%	490	605	114	23%
(%)	(27.7%)	(29.0%)				(28.4%)	(29.4%)		
研究開発費	247	297	50	20%	8%	130	157	26	20%
(%)	(7.2%)	(7.4%)				(7.5%)	(7.6%)		
販管費合計	1,202	1,468	266	22%	8%	621	761	141	23%
(%)	(34.9%)	(36.4%)				(35.9%)	(37.0%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY21 Q2累計	FY22 Q2累計	FY21 Q2	FY22 Q2
営業利益	659	560	296	255
調整① 買収無形資産の償却費	79	95	40	49
調整② 一時的な損益	4	49	3	40
調整後営業利益	741	704	339	345

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY21 Q2累計	FY22 Q2累計
事業再編費用	4	10
細胞処理事業の一部売却に関わるのれんの減損	-	35
その他	-	4

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

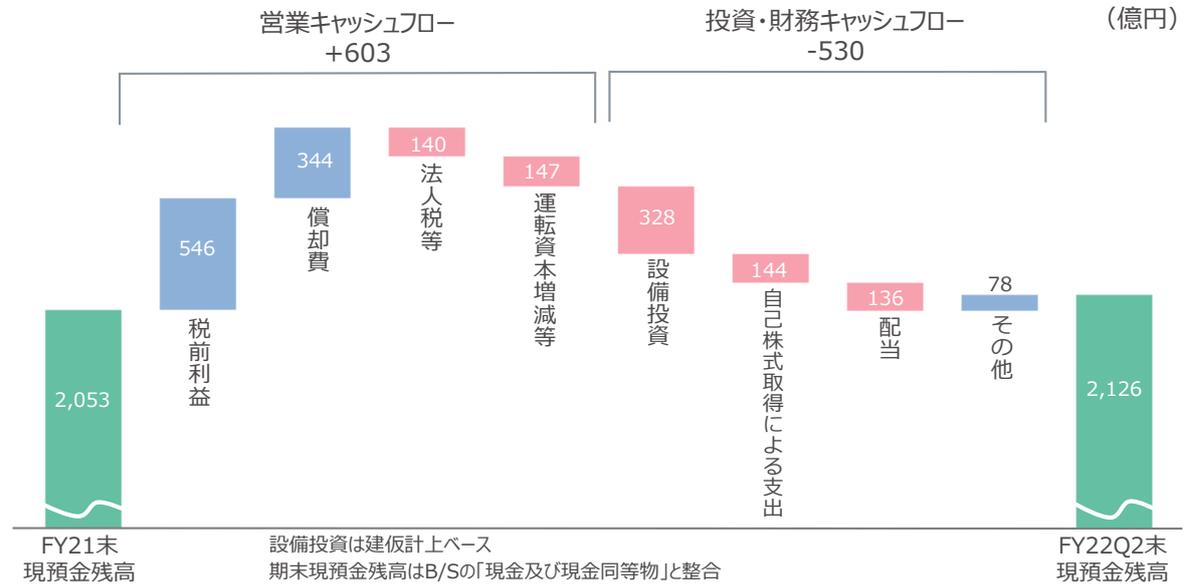
	FY19	FY20	FY21	FY22Q2	FY22予想
設備投資	895	772	692	328	900
償却費	477	484	532	310	635
買収無形償却費	157	146	161	95	173
それ以外	320	338	371	215	462

設備投資は建設仮勘定計上ベース、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

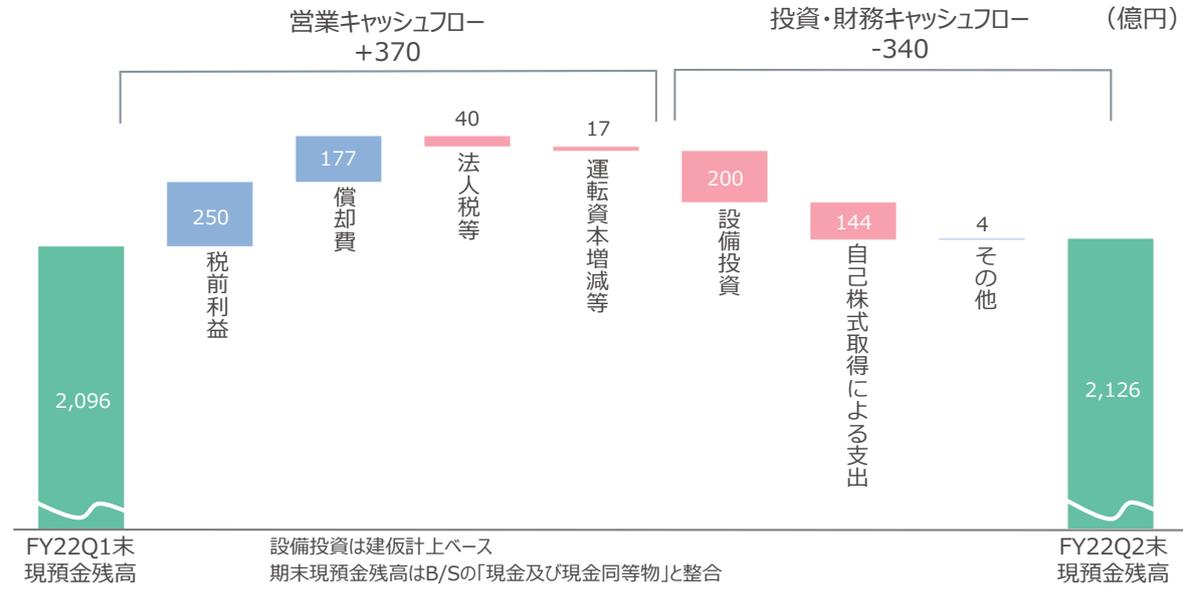
■ 22年度Q2実績（328億円）：主にTIS、ニューロ、PS、血液・細胞テクノロジー等の増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

	FY19	FY20	FY21	FY22Q2	FY22予想
研究開発費	506	491	518	297	580

キャッシュフロー（Q2累計）



キャッシュフロー (Q2)



©TERUMO CORPORATION

23 / 25



FY22 為替影響の内訳（フロー・ストック）

対FY21 為替影響 +34億円

フロー 年間 +64億円：ユーロ高・中国元高によるプラス効果

レート（円）	FY21Q2累計 期中平均	FY22Q2累計 期中平均	差異
EUR	131	139	8
中国元	17.0	19.9	2.9

ストック 年間 -30億円：棚卸資産未実現利益消去への為替影響

・9月度に急激な円安が進行、期中平均と期末日レートの差が拡大 → マイナス影響

レート（円）	FY22Q2累計 期中平均	FY22 9月末	差異
USD	134	145	11
EUR	139	142	4

為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	中国元
売上収益	20	9	38
調整後営業利益	1	5	16

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	中国元	その他
調整後営業利益	7	10	74	13	31	36

